

山本昇十郎先生の蔵書を見る

室 井 綽



書庫の一部

かねてから大蔵書として知られた山本先生のご蔵書を拝見したいものと念願していたが、ついに昭和41年2月13日拝見させていただく機会を得た。

先ず玄関で驚いたのは、徳川時代に使ったという、あんどん、火打石、つげぎ、いまの若い人々には芝居か、万才にでもきかされたことでもあろうか、若い人々に無関係であるが、われわれの年代の思い出になるものが幾つも飾ってある。続いて応接間に通された。各種の百科事典、字引、動植物図鑑、それに先生の知人の名刺など丁寧に綴った先生思い出の有名人、たとえば、牧野富太郎、石川千代松、山本一清、島津源蔵、大幸勇吉のものが見られた。この室から先生の研究や日常の資料、常識が湧き出る源泉であろうと、他人のことながらうれしくなる。ちょっと休憩して、書齋に通される。この室は10畳で、天井の高いこの室に図書室のように下から上までずっと本が並んでいる。植物・動物・物理・化学・科学・雑誌類というように、いずれも読みたい、欲しいものばかりである。室の中央には1畳敷に余る先生の書机があって、周囲には辞書類が幾つともいうか、出版されたものの多くが並んでいる。よくもこんなに買ったものと全くあきれるばかりである。

甚だ失礼であるが、本の蒐集の秘法を尋ねてみた。先生の言われるには、酒もタバコも一切を本代にされて、ときには月給よりも本代の方が高かった由である。また出張なども、昼食代、電車賃なども本代に振りかえられたとのこと。もし、われわれも酒や酒場に行かなければ、何分の1かの本もたまったものと、小学

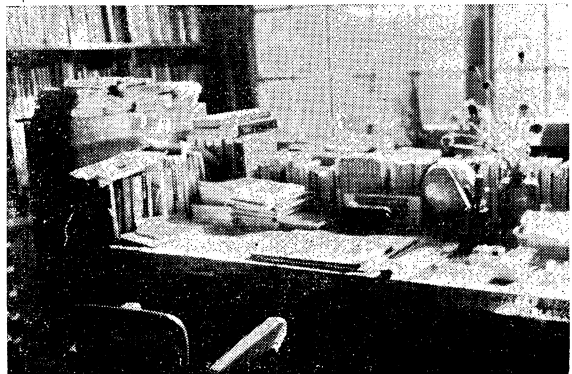
生時代の修身のようにいろいろと反省が湧いてくる。

つぎに2階に案内された。ここでは珍しい雑誌類、先生が各地を旅行された折の参加章、参加名簿、そのときに貰った各学者の研究の報告などが、うず高く積みまれている。先生にとっては過去の思い出のものばかりであります。

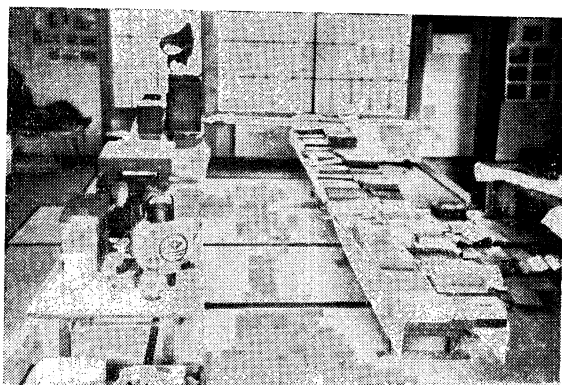
さらに驚いたことは、書庫が別棟にあるから案内するとのことである。言われるままに先生の後に続いていくと、2階が8畳、下が20畳の一軒家がことごとく本の大洪水である。それも珍本揃いなのである。それが1冊ずつ机の上に並べてある。これは日本の理科の教科書として最初のもの、文部省から出した指導書、朝鮮の教科書、終戦当時のもの、また満州の教科書の数々、日本の小学校で使用していた自然観察の理科の教科書、この本などは、私は生まれて初めて覗くので、ちょっと開けてみせて貰った。あれも見たい、これも見たい、とても1週間や10日間では何ともならぬ量である。

すっかり度胆を抜かれてしまったところ、まだこの2階にもあるといわれる。もう何ともお上手を言う言葉もない。ただ先生に続いて2階にあがると、あるある、小学校、中学校の教科書、理科尋四指導書というような類のものが、実に整然と並べてある。その龍大さにすっかり参ってしまう。先生の言われるには、当時出版された指導書の類と、初等教育の雑誌類は、ことごとくお買いになられた由である。

これらの本をみせていただいて、何千冊か到底数をあげることもできないであろう。私も最初に通された室でただ驚いて、自分の持ち合わせの驚きの言葉のすべてを



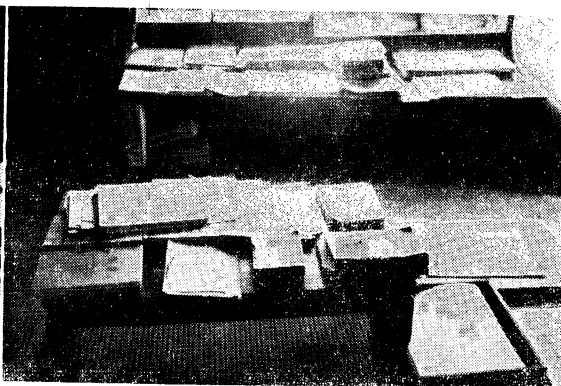
書 齋



約60年間に集めた書籍・教科書・その他のものを陳列した部屋の一部

吐いたので、あとの3つの室ではただ黙々とみせていただくより仕方がなかった。

先生のご指導は、私がいま書くまでもなく有名なものである。先生の実施指導に、ラジオに、研究教授の援助者として活動されていたが、その根源をみせていただき、ただただ驚くばかりである。



教育界50年間の履歴、集めた雑誌、印刷物等の陳列の一部

お別かれに際して、この大蔵書こそ、われわれ生物学会員の大きな誇りである。この兵庫生物に紹介させていただくことをお願いして先生宅を辞退した。何時か、会員の皆様へこの蔵書を紹介するチャンスをつくりたい。それが私の1つの小さい希望である。

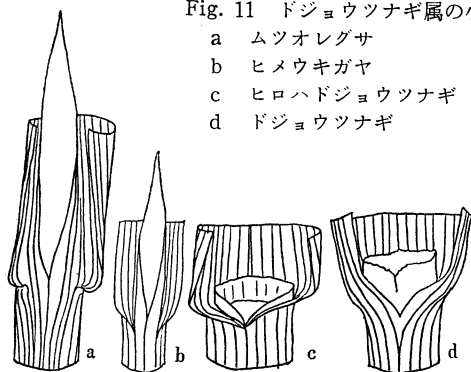
(以下 p. 349より)

これらのうちで水田にはムツオレグサ、ヒメウキガヤが溝などの湿地にドジョウツナギ、ヒロハドジョウツナギが多い。

これらドジョウツナギ属の区別点は次のようである。

Fig. 11 ドジョウツナギ属の小舌

- a ムツオレグサ
- b ヒメウキガヤ
- c ヒロハドジョウツナギ
- d ドジョウツナギ



- A 小舌鋭尖形
 - B 小舌7~12mm, 葉身巾3~5mm……ムツオレグサ
 - B 小舌4~6mm, 葉身巾2~3mm……ヒメウキガヤ
- A 小舌截形
 - B 小舌2mmより短い。
 - C 小舌1~2mm, 葉鞘は小舌部で円筒形……ドジョウツナギ
 - C 小舌0.8~1mm, 葉鞘は小舌部より20~30mm下で円筒形……ヒロハドジョウツナギ
 - B 小舌2mmより長い。
 - C 小舌2~4mm, 縁辺不齊歯状, 葉鞘は小舌部の下4~10mmで円筒形……カラフトドジョウツナギ
 - C 小舌3~4mm, 縁辺契歯状, 葉鞘は小舌部の下10~20mmで円筒形……ミヤマドジョウツナギ

Fig. 11.

続兵庫の自然

本会会員篇で昭和35年5月に渋谷・佐藤両氏が編者となり「兵庫の自然」のじぎく版が出版されましたところ、大いに好評を博しました。さらに六月社から、稿を改めて兵庫の自然として出版されましたが、これまた珍しく好評を得ています。

このたび神戸新聞のじぎく文庫から、続兵庫の自然の出版について依頼を受けましたので、会長、理事で、責任編者の依頼、さらに執筆内容の項目など計画を急がねばならなくなりました。

つきましては会員の皆様方で統篇項目について次の条件でご推薦下さい。適当な執筆者、もちろん自薦もお結構です。

(1)学問上面白いこと、(2)県民に知らせたいこと、(3)教育上ぜひ学習させたいことなどについて1月中旬に、室井紳(神戸市長田区寺池町県立兵庫高校生物室)にお知らせ下さいませよう願います。

ただし、既刊の正篇に収録されたものは再録いたしません。なお、兵庫の自然(のじぎく版)は絶版となりましたが、六月社版(兵庫生物学会、20周年記念出版物)は目下売出し中ですので、最寄りの書店へてご注文下さいませよう、願います。(室井紳)